

## どんな商店街？

中の棚商店街は広島市都心の八丁堀にあり、相生通り（電車通り）と本通・金座街に囲まれた縦横5本の街路からなる商店街で、「グルメ＆ファッションの街」です。おいしい食事の店のほか、おしゃれなブティックや美容院がそろっています。また、魚問屋が集まっていた街の歴史をコンセプトにした街路整備を進め、路面には中の棚のロゴを施した赤御影石が敷き詰められ、防犯カメラを装備した独自のLED街路灯も並んでいます。その他にも、中の棚稲荷神社の例大祭とのコラボイベントを開催したり、中振連（広島市中央部商店街振興組合連合会）の一員として共同事業に協力しつつ、子育て支援施設の誘致・開設や維持に取り組んでいます。

商店街の最大の課題は、郊外型商業施設との競争であり、これに対抗するには、各商店街の個店やコンセプトを明確にした個性的な店舗作りが欠かせません。中振連（広島市中央部商店街振興組合連合会）との共同事業やイベントを通じて、各商店街がそれぞれの役割を自覚しつつ、個性を活かした事業を展開していましたが、依然、最大の課題である郊外型商業施設との競合状態の改善につながりませんでした。

そのような中で、郊外型商業施設の強みを分析してみると、その強みは、車で行きやすいことやキッズスペースの設置など、子育て世代に対する圧倒的な訴求力があることが分かりました。さらに商店街から1度離れた子育て世代が、時を経て中年層や若者世代になった時には、その世代を商店街へ呼び戻すことは、非常に難しいことが予想され、改めて商店街が、子育て世代を呼び込むことが不可欠だと認識し、子育て施設の誘致に取り組むこととしました。



## 広島市中の棚商店街振興組合

### ■ 多くの子育て世代に来てもらえる商店街を目指して

中の棚商店街では、商店街振興を兼ねた子育て支援活動として、NPO団体の力を借り、「商店街子ども一時預かり所」を試験的に開設していました。

平成24年に広島県が子育て支援施設を展開する際に、テナントビルの空き物件を交渉し、「広島県子育てサポートステーション・エポカキッズ」を誘致・開設しました。開設後、月間1000人前後の利用者があり、来街者増にも寄与することとなっただけでなく、都心部でマタニティ・ブルーに悩む母親にとっての救済策となるなどの有効性も確認されました。



その後、予算不足により施設閉鎖の危機に見舞われましたが、以前から協力関係にあったNPO団体等との連携や、ビルオーナーとの家賃交渉等が奏功したことに加え、国の「地域子育て支援拠点事業」制度を活用により、平成28年に、「ひろしまNPOセンター」の受託を得て、広島市の「公募型子育てオープンスペース・つばさ（以下「つばさ」という。））として、現在まで継続しています。



### ■ 子育て世代に優しく、親子で楽しめる商店街

「つばさ」がリニューアルした平成28年の通行量調査では来街者が前年度比5%増となりました。しかし、「つばさ」の組織改編によるスタッフの減少や利用の有料化等で、利用者的大幅減少が見込まれましたが、前年の20%減程度に落ち着き、その後は、安定的に推移しています。

中の棚商店街としては、「つばさ」の利用者に商店街を利用してもらうべく、イベント時に併せて「子ども写真コンテスト」を実施したり、商店街の店舗を利用すると、ポイントがたまり、「一時預かり利用券」や「買物券」がもらえる「中の棚商店街子育て応援ポイ

ントカード」事業の実施や、商店街が管理する駐車場の駐車券・駐輪券をサービスしたりするなど、利用促進策を実施しています。

